眠れぬ夜に

泪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
眠れぬ夜に

【Ｎコード】
Ｎ２５５５ＢＡ

【作者名】
泪

【あらすじ】
眠れぬ夜に。布団の中での出逢い。

午後１１：３０。

最近寝床に就くのが遅い。

原因は、テレビ。

連ドラが終わったこの期間、番組は、いつもバラエティの特番で埋め尽くされている。

チャンネルを回す度聞こえてくる、笑い声。

正直、疲れている時に大声の笑い声は気が滅入る。

しかし、仕事の無い今は別。

今晩もテレビに齧(かじ)りつくように特番を眺め、笑っていた。

すっかり湯冷めしてしまった身体を擦りつつ、布団に潜り込んだ。

布団から顔だけを出す。

枕元に置いてある目覚まし時計に手を伸ばした。

冬の冷たい空気に触れた両手は、布団の中で温もり始めた身体と反対に冷えを取り始めた。

今日一日をやり終えた安堵感に浸りつつ、力が抜けていくのを感じ

ていた。

目を瞑(つむ)る。

２０分くらい経っただろうか…。

時間が経つにつれ、何故か目は冴え始めた。

顔だけを動かし、時計を覗く。

暗がりに時計が見える。

カチカチカチという音と共に秒針が忙しなく動いている。

時刻は、午後１１：５０。

自分の体内時計の正確さに感心したが今はそれどころではない。

眠れないのだ。

いつもはこんな事ないのだが。

心配する自分を他所に時計は進む。

とその時、何か人の手のような柔らかいものが私の身体を抱きしめた。

いや、抱きしめたというより、包み込んだというほうがよいだろう。

それは、とても暖かかった。

身体だけじゃなく心まで。

随分長い時間が経過したように感じられた。

ふいに強烈な睡魔が襲ってきた。

目を開けているのも辛かった。

いつのまにか私を包んでいた手は、消えていた。

遠くなる意識の中、最後に時計を見た。

２本の針は、午後１１：５０を指していた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2555ba/

眠れぬ夜に

2012年1月6日16時53分発行